

100万人都市水土里のシンポジウム

# 「北の大地の魅力再発見」

～女性の視点で北海道の農業・農村の宝を見つけよう～

北海道開発局 農業水産部農業設計課

北海道の農業・農村は、大規模で生産性の高い経営の展開によりわが国最大の食料基地として、安全で安心な高品質な食料の供給のほか、国土・自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承、地域経済の安定等の多面的な機能を有しています。

このようにさまざまな役割を果たしている豊かな北の大地は、道民のみならず国民にとっても魅力ある貴重な財産であり、その源となる農地、農業用水等の資源を次世代に確実に継承していくことが、私たちの重要な使命となっています。

北海道開発局では、北海道の農業・農村の魅力について女性の視点で語り合い、国民共有の財産である農地、農業用水等の資源を次世代に向けてどのように残していくかをテーマに、9月21日に札幌市で、100万人都市水土里のシンポジウム「北の大地の魅力再発見～女性の視点で北海道の農業・農村の宝を見つけよう～」を開催しました。シンポジウムには、一般市民・農業関係者など約500名の方が参加しました。

シンポジウムはオープニング映像、本多満北海道開発局長の開催挨拶の後、トークショー、クイズ、生源寺眞一東京大学大学院教授による講演、パネルディスカッションの構成で行いました。

## オープニング映像「北海道の大地の魅力」

北海道の農業、農村の映像を使い、農村にある農地、農業用水等の資源についてわかりやすく説明し、参加者に理解を深めてもらいました。



## 開催挨拶

本日は、北海道の農業や農村の魅力について、女性の視点で語り合い、魅力あふれる北海道の大地の持つポテンシャルと、それを支える農地や農業用水等の資源をいかに保全していくかを議論していただこうと考えています。

このシンポジウムの開催を契機に、北海道の農業・農村について、道民全体に広く議論が展開され、多様な役割を果たしている北の大地の大切さが道内から、さらには日本全国に理解と支援の輪となって広がることを強く期待しています。



本多 満 (ほんだ みつる)  
北海道開発局長

## トークショー 「北海道の魅力について」

ヒロ 中田氏 (株)リクルート北海道じゃらん編集長

林 美香子氏 フリーキャスター



林 美香子氏 はやし みかこ  
フリーキャスター

北海道大学農学部卒業後、札幌テレビ放送(株)にアナウンサーとして入社。'85年札幌テレビ放送を退社し、フリーキャスターとして活動を開始。FM北海道(AIR-G)パーソナリティなど放送の仕事のほか、公式行事やイベントなど幅広く活動。「食と農」関連のシンポジウムにもパネリスト、コーディネーターとして参加。北海道田園委員会、NPO法人北海道ツーリズム協会理事、「スローフード&フェアトレード研究会」代表、農林水産省「食と農の応援団」メンバー。著書に「ワーキングマザーの元気ブック」、「楽々おかずとおやつ」その他。



ヒロ 中田氏 ひろ なかた  
(株)リクルート北海道じゃらん編集長

1960年広島県生まれ。'84年慶應義塾大学卒業後、(株)リクルート入社。'99年「じゃらん北海道発」編集長に就任。「シーニックドライブ」『旅の絵手紙』『平成の新・湯治』『公園観光』など、北海道らしい新・定番観光スタイル「スローツーリズム」を提唱中。「北海道米」「道産野菜」「道産小麦」「道産牛肉」「道産魚介類」など北海道食材の消費拡大のための「地産地消」「スローフード」プロモーション企画を幅広く展開している。

中田 美瑛は約130万人の方が景観を見に訪れるのですが、その美瑛の景観をつくっているのは、日々農業を営んでいる方の努力のたまものだと思います。それが、うまく観光客に伝わっていない側面があり、何か勝手に自然がこの丘を、景観をつくっているように思われている節があります。

林 農村景観というのは、農業があってこそ、その美しい景観があるのですから、そのあたりは、観光客の皆さんにどんどんお知らせしてほしいと思います。

中田 農業・農村の持つ多面的な機能をわかりやすく三つに集約してみました。一番目は農村には食育機能がある。二番目は人間性回復機能。三番目は安らぎ、いやし創出機能という、この三つの機能があるのではないかと思います。

林 食料基地としての北海道は肥沃な大地とか、冷涼な気候とかいろいろあると思うのですが、実は水の力というものもすごいのです。お米が取れたり、野菜がつくられたりしているというのは、農業用水が完備されているからなのです。

中田 景観がすばらしい北海道、食材も豊富な北海道。この二つを組み合わせ、景観の良さと食材の豊富さをうまく組み合わせていけば、もっと北海道の魅力は高まります。

林 ソルボンヌ大学の総長のピットさんは、質の高い農業を行っている農村は、質の高い景観を有していると言っています。そういう意味では、美瑛や富良野はすばらしい景観、農業生産を行っている地域ですから、さらに深めて、その地域らしい食文化をつくってほしいと思います。

中田 北海道は農業が基幹産業です。そこに観光と食という三つの連携、どのように三位一体化するかというところが、これからの北海道を元気にするキーポイントだと思います。

## クイズ

「赤平市から南幌町まで結ぶ日本一長い用水路、北海幹線用水路の延長は何km。①8km②82km③234km。正解は②」など、北海道の農業・農村や農地・農業用水などの資源に関するクイズを4問出題し、会場の皆さんに答えていただきました。

## 講演 「農村地域資源の保全」

生源寺 眞一氏 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

### 1 農業を支える地域資源

大事なことが二つあります。一つは、農業用水路や農道や防風林などの地域資源は、農業生産の縁の下の力持ちになっていることです。創意工夫を図る農業や消費者との交流を図る農業の土台を支えています。

もう一つは、農業を環境保全型に転換するとともに、その下を支えている農業用水路などの地域資源のあり方についても環境保全の視点を重視する必要があります。これが、結局のところ日本の農産物に対する、あるいは北海道の農産物に対する消費者の支持、競争力を強めることとなります。

### 2 地域資源の特質

用水路、排水路、道路あるいは防風林、こういったものは、個々の農家の力を越えた地域の共同の資源です。地域資源を守る1人1人の貢献がそれぞれの営農活動を支える共助・共存の関係にあり、



**生源寺 眞一氏**  
しょうげんじ しんいち  
東京大学大学院  
農学生命科学研究科教授  
東京大学大学院農学生命科学研究  
科教授

1951年愛知県生まれ。'76年東京大学農学部農業経済学科卒業後、農林水産省農事試験場研究員、農林水産省北海道農業試験場研究員を経て、'87年東京大学農学部助教授、'96年より現職。この間、'89年ケンブリッジ大学客員研究員、日本フードシステム学会会長、食料・農業・農村政策審議会企画部会長、国土審議会委員など。著書に「農政大改革」、「21世紀日本農業の基礎構造」（編著）、「ふるさと資源の再発見」（共著）その他。

農村地域資源はコモンズ（共有地）と考えられます。

用水路などのハード面での資源も大切ですが、先人の努力で培われた農村コミュニティの合意形成力やルール遵守の気風などソフトの意味での地域資源も重要です。（ソーシャルキャピタル）農村における身の回りの資源や環境を自ら保全する共同行動は、都会人が学ぶべき伝統です。

### 3 農村地域資源のあり方

村の力は個々の自由、創意にあふれた行動を束縛しがちですが、北海道の場合は、村の力、共同の力と言っても個を縛るようなものではなく、個々が自立して、その前提でお互いが合意の上で共同の力を発揮しようという、これからの地域資源の保全のあり方にとっては、非常に大事な点を先取りしています。

農家のみでの地域資源の保全の仕組み、ルールであっては、もうこれから継続していくことはできません。地域の非農家や地域を訪れる都会の人々にとっても価値のある開かれた地域資源にしていかなければなりません。既に非農家の住民やNPOの参加がはじまった農村地域資源の保全活動が少しずつ行われています。

また、未来に向かって開かれた地域資源の保全であり、地域資源であってほしいと考えます。今の世代には全く影響はないけれども、遠い世代に大変深刻な影響を及ぼすかもしれないことについて、今のうちにきちんと変えていくことができるのが社会だと思います。長期の視野をもって農村地域資源の保全のあり方を考えていくことが大事です。

## パネルディスカッション 「北の大地の魅力再発見」



### 北海道の魅力、それを支える農村地域資源の現状

**山川** 私は農業、加工業をしながら都会の皆さんと交流をしてきましたが、都会の皆さんは農業の現場、食べ物をつくる現場をあまりしらないということを感じました。そんな中で都市と農村の交流事業を手かげたのですが、消費者の皆さんをもっと私たちの農業現場に近づけなければ、本当の理解に繋がらないと感じ、都会の皆さんたちを私たちの農業現場に迎えました。



**山川 八重子氏**  
やまかわ やえこ  
こぶしの会（母さん工房）代表  
1998年より旭川にて農業体験の受け入れを行うなど食を通じた都市と農村の交流を推進。'04年には地域おこしグループ「農家の母さん」を結成。旭川市国際交流委員、旭川市農業員。

**湯浅** 私は17年前にグリーンツーリズム、ファームインに出会い、農村風景をいろんな角度から見聞きしてきましたが、農村風景は農業をやっている中ではぐくまれている風景です。その農村景観を大事にすることが、農業を大事にすることであり、食を大事にすることだと実感しています。

**林** 農村に出かけて、本当に初めて知る農業・農村のすばらしさというのが沢山あります。また、農業・農村の持つ教育力とかいやしの力、こうしたことは、農村にいてみないと分からないことです。地元のものを買続けることが、消費者にとってできる地域資源を守る道だと思います。



**柵木 環氏** ませぎ たまき  
農林水産省農村振興局  
総務課長補佐

三重県生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了後、農林水産省入省。淀川水系土地改良調査管理事務所計画課長、農業工学研究所研修課長、農村振興局事業計画課長補佐などを経て、'05年4月より現職。

**柵木** 農作物に水を供給する農業用水、その水を送る農業水利施設などは、重要な施設です。これらの地域資源が適切に管理されてこそ、農業生産もできますし、農業によって得られる多面的機能も発揮できます。

農家の方へのアンケート調査の結果、地域資源の将来維持が難しいと考えている方が全体の8割と危機感が迫っています。

**生源寺** 資源保全の問題は即効性の特効薬というのではないかもしれませんが。今、きちんとした努力をしておくことで、10年後、20年後ある意味では回復してくる、あるいは維持されるということではないかと思います。そんな意味でも今、手を打っておくことが非常に大事だと思います。

#### 北の大地と、それを支える資源の保全のあり方

**柵木** 資源を保全するためには、一定のエリアを設定し、保全活動組織を結成することを考えています。その活動組織は、農家だけではなく地域住民、NPO等から多くの参加を得て活動組織をつくっていくことをイメージしています。こういった活動組織が資源保全のための協定を結び、資源保全に取り組んでいくことに対して支援していると考えています。

**山川** 私たちが都市と農村の交流を通じて消費者の皆さんと対話していると、必ず、その解決の糸口をお互いに探し始めます。そうすると、必ず大なり小なり問題の解決ができます。農業者の役割、都会の人たちの役割、農村の役割、その辺のことも必ず見えてくるような気がします。

**湯浅** 十勝は恵まれた環境の中にあり、生産性も高く農業もとても元気ですが、10年後、農業者は確実に減ると実感しています。まだ、みんなの中に危機感が実感としてわいていないような気がします。元気なうちにしなければ、10年後、30年後、取り返しのつかないことになるのではないかと思います。

**林** 農業、農村を保全するための援農システムとか、新規就農システムを本気で考えていかなければいけないと思います。援農システムは、ワーキングホリデーとか、有償ボランティアとか組織化する必要があると思います。新規就農は資金面での対策が今、以上に必要だと感じています。また、農村花婿とか、新規就農については、いろいろ工夫ができるのではないかと思います。

**生源寺** 北海道の魅力は食生活と風土が、ある意味でバランスが取れていることだと思います。風土、気候にあった食生活があり、食生活にあった農業あるいは農耕景観、それはやはり両者が一体のものだと思います。食生活と、その農業の営みなり、景観なり、風土なりのギャップがあって、そのずれが自給率の数字に表れていると思います。その点、北海道に関しては日本の中で一番マッチしていると思っています。これを守り育てていくことが非常に大事だと思います。

**真砂** 母なる大地と言いますが、今日はその大地に様々な取り組みをされている方、広い視野で農業を見詰められている方、さらにはその魅力を伝えている方から北海道農業の魅力をたっぷりと伝えていただきました。皆さんありがとうございます。ありがとうございました。



**湯浅 優子氏** ゆあさ ゆうこ  
「つっちゃん」と優子の  
牧場の部屋」オーナー

長崎県生まれ。1996年から十勝の新得町にて日本で最初の酪農ファームインを経営する傍ら、地域の景観保全のグラウンドワークを実践。'01年からは酪農教育ファームの認定牧場となり、教育ファームへの取り組みも行っている。北海道農業・農村振興審議会委員、北海道美しい景観のくにつくり審議会委員、NPO法人わが村は美しくー北海道ネットワーク理事。



**真砂 徳子氏** まさご のりこ  
フリーキャスター

埼玉県生まれ。明治大学文学部独文学科卒業。新潟テレビ21アナウンサーを経てフリーに。「月尾嘉男日本百年の転換戦略」、「月尾嘉男・未来世紀日本」レポーターなど教養番組を主なフィールドに活躍中。'04年、100万人都市水士里のシンポジウムのパネルディスカッションの司会・進行を担当。